

第IV部門

アテネにおける都市内小動物に対する動物愛護行動と地区コミュニティ

大阪工業大学大学院工学研究科 学生員 ○原田 茜
 大阪工業大学都市デザイン工学科 正会員 田中 一成

1. はじめに

都市生活において、ペットなどの身近な動物の存在は、社会的ストレスの解消だけでなく、地球規模の環境を身近に考えるきっかけになっているともいえる。一方、ペットを飼う人が増えたと同時に手放す人が増えたことがひとつの都市の社会問題となっている。ペットの世話を十分にできずに譲渡するだけでなく、保健所に持ち込む、捨てる人が存在している。

その中でも猫の飼育数は犬の飼育数を上回るほど増加している¹⁾。猫が犬よりも多く飼われる一番の要因に飼育しやすさ、飼育費用が少なくすむという理由がある。こうした現状により、飼い主のいない猫を見かける機会も多い。猫が好きな人もそうでない人もいの中で、糞被害や近隣トラブル、飼い主のいない猫に対する苦情なども数多くあり問題視されている。

このような問題は、日本だけでなく諸外国でも同じように問題視され、対策が試行錯誤されている。これまでの研究では地域猫活動をおこなっている地区とそうではない地区でアンケートと猫の行動範囲の調査をおこない、そのデータを基に猫の行動範囲と被害が関係しているのかGISで分析をおこなってきた。その結果、街全体のコミュニティの発達状況が、猫同士の仲の良さや人と猫の仲の良さにつながっている可能性があることをみいだした。ここでは、国外における都市コミュニティと小動物の状態をみることで、今後の可能性を明らかにする。

2. 研究の目的と方法

本研究は、小動物の状況と都市内における地区コミュニティの状態の関係を明らかにすることを目的とする。これまでの成果をもとに、国外の事例調査を行う。研究方法は、対象都市をアテネ（ギリシャ）として、動物愛護団体に対するヒアリングを行う。また、活動の現地観察と、住民の対応について両者の関係をまとめる。合わせて同様の問題をかかえていたギリシ

ャと日本の歴史的経緯についてまとめる。

3. 都市内小動物と人間生活環境の空間関係分析

まず、これまでの研究成果を概観する。最終的な対象地区全体の分析結果を示したものが図1である。対象地区内で地域猫活動をおこなっている地区Aとおこなっていない地区Bとで地域猫に関するアンケート調査をおこなった結果からは、地区Bでは地域猫に対する関心が低く悪い印象を持つ人が多いことがわかった。次に、対象地区に生息する猫の個体数や生息位置を把握するためにルートセンサス法を活用し調査をおこない、この結果から猫の行動範囲²⁾を作成した。図1では、猫の行動範囲とアンケート調査で鳴き声被害と回答した人の位置を表している。この猫の行動範囲と鳴き声被害の2つを比較すると、地区Bでは個人で餌やりをしている人が複数人いるため去勢手術や猫の管理ができず猫同士の争いが鳴き声被害に繋がっている。逆に地区Aでは、地域猫活動のボランティアによる去勢手術や適切な餌やり等で猫の管理をしているため猫同士が争うことが少ない。

地域猫活動は地域住民の理解を得て行う活動のため地域猫活動への理解や住民の協力がある。このことは、結果か原因かを判断することは難しいが、住民のコミュニティも発達している。猫と人々のコミュニティも共存しているといえる。

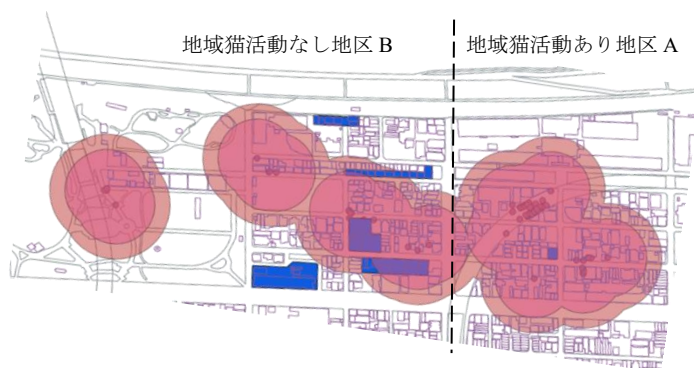


図-1 猫の行動範囲と鳴き声被害

4. アテネ（ギリシャ）における近年の動物愛護

ギリシャでは、2004 年のアテネオリンピックを機に野良犬殺処分ゼロの方針である保護プログラムが始動した。しかしその後、2009 年のギリシャ危機で犬猫の飼い主の経済を圧迫したことで野良犬や野良猫が急増した。これに対して、2012 年に動物のサーカス等の商用利用禁止とともに野良猫保護プログラムが始動し野良猫殺処分ゼロの方針へと移行したが、その後野良犬野良猫保護プログラムへの予算を当初の€150 万から€15 万へと 1/10 の予算まで低減したが現在もなお殺処分ゼロの方針が続いている³⁾。予算が低減しているがボランティアに参加し協力する人が多い。このようなボランティア活動が継続する地区において、現在も継続し犬猫が生活している地区も多くある。左上の写真は個人で猫の家を設置し餌やりをおこなっている場所である。下の写真は地域猫への餌やり風景であり、右上の写真は大学内に生息する野良犬である。いずれも住民に慣れている様子がうかがえる。



図-2 アテネ市内の現況（撮影日 2023 年 4 月 17 日～5 月 15 日）

5. 日本の動物愛護史

日本では、1662 年に犬が人に噛みつき狂犬病患者が多くなったことをきっかけに狂犬病に感染した犬や家畜を殺処分するようになる⁴⁾。現在の殺処分方法はドリームボックスという箱のような部屋に入れられた動物たちは二酸化炭素ガスにより窒息死で殺処分される⁵⁾。平成 3 年に横浜市の市内各地で野良猫による糞尿被害が問題となり検討委員会が設置され、1997 年には磯子区ホームレス猫防止対策事業をきっかけ

に地域猫活動が始まる⁶⁾。そして 2014 年に熊本県が日本で初めての犬猫殺処分ゼロを達成した。⁷⁾しかし、2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日の 1 年間で犬 2,739 頭、猫 11,718 頭が殺処分されている⁸⁾。殺処分ゼロの取り組みやボランティアによる譲渡会などにより殺処分される犬猫の数は年々減少傾向にあるが毎年多くの命が失われている。日本での地域猫活動は非営利団体の中でボランティア個人が個別に活動しており、地域猫と直接繋がりがあるのは個々のボランティアになっている。また、活動に対して地域住民からの理解が少ない場合も多い。

6. 考察

調査結果から、対象地区では、日本と同様の歴史的経緯にありながら、小動物とコミュニティの状況について差異がみられる。ボランティア活動以外の地区住民と小動物が共存していることが明らかであり、ボランティア活動をしている個人を通して人々と小動物が共存している状況と異なるといえる。生態を知るといことは、ボランティアを通してだけでない理解も重要といえるのかもしれない。小動物の多様性を直接理解することは、良好なコミュニティを形成するために必要である可能性がある。今後はこの結果をもとに日本とギリシャの両国における都市内小動物に対する価値観について調査をおこなう。

7. 参考文献

- 1) 動物愛護管理行政事務提要、環境省、2021
- 2) 猫の個体群動態と生体、三井 香奈ほか、帝京科学 大学紀要、vol.13、p1-5、帝京科学大学、2017
- 3) 動物保護入門、浅川千尋ほか、p102-106、2021
- 4) 公益社団法人大阪獣医師会、日本の狂犬病の歴史
- 5) ドリームボックス・殺されてゆく動物たち、小林輝幸、毎日新聞社、2006 年 6 月
- 6) VI ねこと共生するための地域的取組みの事例、環境省
- 7) 片野ゆか、「ゼロ！こぎゃんかわいい動物がなぜ死なねばならんと？」集英社、2012
- 8) 犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況、環境省、2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日